

山形便り 平成27年5月 7日

「かぶきもの 前田慶次」遺品展 ——木曜時代劇 放映記念 開催中

前田利家の甥、慶次は武勇とかぶき者として、知る人ぞ知る戦国末期の武将です。種々の経緯の末、他の誘いを断り、大々名上杉景勝に召し抱えられます。

戦国末期、上杉景勝は石田三成に呼応し、徳川家康軍を引き出すため、最上氏の本拠地に攻め込み「みちのくの関ヶ原」長谷堂合戦を繰り広げ、山形本城から十数kmの要衛・長谷堂城を包囲しながら救援に駆けつけた最上軍本隊並びに伊達応援隊と攻防しますが、案に相違し、関ヶ原が1日で決着したため、会津に撤退します。

その時、前田慶次は殿を務め、追撃して猛攻する最上軍に立ちはだかり槍を振るって味方の損害を減らし、武将の花を咲かせたと伝わっています。

関ヶ原戦後処分により上杉が30万石に減封され米沢に押し込まれた後も、米沢に留まり、無苦庵で余生を送っています。

今春、NHKの木曜時代劇放映を記念し、例年にも増して、米沢の個人が始めた小さな博物館 宮坂考古館で慶次の甲冑と槍等遺品展示が行われています。(博物館内 実物は撮影禁止のため 資料を載せます。)



NHK木曜時代劇「かぶきもの慶次」放映記念

前田慶次 遺品展

Maeda Keiji - Ten

開催期間 平成27年4月1日(水)~6月28日(日)

○開館 / 午前10時~午後5時
○休館日 / 月曜日 (祝祭日の場合は翌日になります)

展示会場 公益財団法人 宮坂考古館 米沢市東1丁目2-24
TEL 0238-23-8530

※期間内にパネル・展示品の入れ替えもございます。

伝前田慶次所用甲冑 (朱漆塗紫糸素掛威五枚胴具足南蛮笠式) ▶



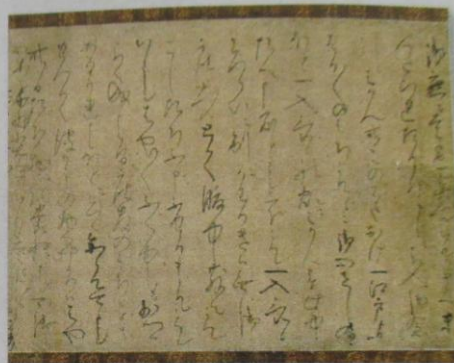
伝前田慶次所用兜

兜のツバは南蛮帽のように反りがあり、唐花を透かして配している。肩に袴のようなマンチラを付けているのが珍しい。



伝慶次所用の槍 (個人蔵)

特に槍使いが得意で朱柄の槍を使うことを許されたという。刃長が43.7センチメートルあり、全長で3.13メートルの長槍である。



前田慶次利貞書状 (財本間美術館蔵)

慶次自筆の書状として伝えられている。晩年腹痛におかされている様子がわかる。見舞にいただいたミカンを食べたお礼の手紙である。
(パネル展示)

戦国に かぶきたる慶次 鏝おきて 無苦庵にあり 思いは如何に (須)



徳 利

木彫りの瓢箪型德利で高さ25センチメートルある。「戦雲如墨疾雷雨祝出陣神酒一盃 利貞」と彫られ、へのへのもへじが刻まれている。



伝慶次所用茶碗(個人蔵)

堂森に住んでいたとき慶次が使用したものと伝わっている。

戦国に かぶきたる武士 無苦庵に 日々を重ね 何をか思う (須)



伝慶次所用編笠

奇行を標榜するのにふさわしい。全て馬の尻尾で編まれている。



浅葱糸綾威鎧色塗切付札二枚
胴具足
伝 直江兼続所用



素懸紫系威朱五枚胴具足
伝 前田慶次所用



素懸白綾威黒鞆韋包板物腹巻
伝 上杉謙信所用



浅葱糸綾威黒鞆韋包板物二枚胴具足
伝 上杉景勝所用